［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日 平成　年　月　日

【評価実施概要】

事業所番号	1073100545
法人名	社会福祉法人ポプラ会
事業所名	グループホームりんどう
所在地	邑楽郡板倉町細谷202 （電　話）0276-77-2550

評価機関名	特定非営利活動法人　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年5月17日

【情報提供票より】（ 平成22年 5月 6日事業所記入 ）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人 非常勤 4人 常勤換算 7人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 1 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（月額）	87,000 円		その他の経費（日額）	光熱水費300円（日額）
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は、1日1,000円			

（4）利用者の概要（ 5月 6日現在 ）

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0	名	要介護2	1	名
要介護3	3	名	要介護4	2	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢 平均	84.3 歳	最低	68 歳	最高	105 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	館林記念病院 ・ 増田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地に、事業所の他に法人の介護老人福祉施設、ケアハウス、デイサービス等が建てられている。敷地内にある交流広場は、地域の人々、利用者ともに自由に利用でき、シルバー人材センターの人々によって手入れがされている。地域で採れる新鮮野菜の食材と利用者の好みを取り入れ、相談しながら献立表を作成している。楽しく食べられる食事やおやつの時間を工夫し、月1回はバイキング形式、日頃はおかわり（主食、副食）のできる演出、利用者中心のおやつ作り、みんな一緒に頂くという楽しく美味しく食べる工夫を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果は、職員会議で管理者と全職員で話し合い改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	以前の外部・自己評価の見直しをするとともに、日頃のケアの振り返りを行い全職員で記入している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月に1回定期的に開催している。会議内容は、事業所からの活動状況や事故防止に関すること等の報告であり、出席者との意見交換や話し合いに欠ける。家族への参加の働きかけの継続と議題にあわせたメンバーを加えることで今以上の意見交換や話し合いができることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族がサービスに関する相談・要望・苦情等を表出できる窓口として市窓口、国民保険団体連合会等公的機関の連絡先を伝えている。事業所では意見箱を設置し、管理者が窓口になり意見（外出の希望等）を伺い運営に取り入れている
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	デイサービスの利用者、老人会やシルバー人材センターの人々、敷地内にある喫茶店を利用する近隣の方、ケアハウスの方等多くの人々と交流・連携している。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の他の事業所の理念を参考に、全職員で話合い検討している。大別して尊敬、地域での生活、自立と個別支援を意識し作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりの心身機能や参加希望の活動や参加可能な活動を把握し、自立に向けた個別支援をしている。また、理念は玄関の目に付くところに掲示している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花火大会など地域行事に参加している。また、買物や散歩に出かけた際に畑仕事をしている方と言葉を交わす等は日常的に行われている。建物内にある在宅介護支援センターを通じて、そこに行き来する老人会やシルバー人材センターの人々と交流している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の職員会議を利用し、前回の外部評価結果、自己評価の見直しをしている。また、今回の自己評価は、項目毎に日頃のケアと比較し振り返りに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に開催している。会議内容は事業所からの活動状況、事故防止に関する報告に終始し、固定化している傾向にある。家族に電話をかけたり、ポスターを玄関に掲示し、出席を促している。	○	家族への参加の働きかけの継続と議題にあわせたメンバーを加えることで今以上の意見交換や話し合いができることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター、市健康介護グループ職員と良好な関係である。居室状況の報告や緊急入居の依頼があれば、対応している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「りんどう便り」と献立表等を、月１回定期的に送付している。また、家族の来所時には普段の暮らしぶりや健康状態を伝えるとともに、個別記録を読んで頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。サービスに関する相談等は管理者が窓口になり、常に聞く姿勢と運営に反映させる努力を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は隣接の介護老人福祉施設であるが、最小限に抑えている。やむを得ない場合は、グループホームでのケアの適任者を選び、利用者に紹介し時間をかけて関係を築いている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて、認知症基礎、実践リーダーの研修会に順次参加している。法人の合同研修が年2回開催されており、参加している。また、事業所の勉強会も行い、最近の内容として「転倒、転落の応急処置等」を行っている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の2ヶ月に1回の集まりや年2回の交換研修において他の事業所での体験学習を行っている。また、法人内事業所同士の勉強会や意見交換をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人のケアハウスやデイサービスを利用していた方の入居希望が主であるが、事業所内部の見学、家族や本人への説明をすることが原則である。家族の都合がつかない場合は、職員が訪問し面談を行い、時間をかけて支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が一緒に作るおやつを、みんなで楽しんでいる。利用者から昔の歌を教えてもらったり、さし木を教えてもらい花が咲く等、日常的に教えて頂くことがある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事やおやつなどのいろいろな場面を利用し、直接本人に聞いたり、家族からも伺い、双方の希望や意向に沿った支援をしている。正月やお盆、連休等は、自宅で家族と共に過ごしたりしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	1名の職員が2名の利用者の生活機能を把握するという担当制である。職員会議で、把握した情報を基に管理者と担当者が中心になり全職員で介護計画を作成している。作成された計画は、家族に承認されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録表を作成し、服薬の有無、行動、身体状態等の項目毎に毎日チェックしている。生活行動や身体状態の変化に応じ、その都度話し合いの場を設け、全職員で検討・計画の見直しをしている。原則3～6ヶ月を目安に、全利用者のアセスメントを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している介護老人福祉施設やケアハウスの利用者と職員と共に交流している。利用者の居室に家族が宿泊することや本人希望による急な外出にも柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、家族や本人の希望を聞いている。受診、状態の変化等の相談や往診は、母体病院を全利用者が利用している。他科（精神科）の受診・通院介助は、家族が行い診療結果を職員に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	人生最後まで共に暮らし、看取りのできる事業所を目指している。現状では経口的に食事摂取ができなくなった状態を目安に、母体病院へ転移することを、家族、本人、職員ともに理解している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する共感、受容、傾聴の姿勢を基に、尊敬語を用い丁寧な対応である。個々の排泄リズムを把握し、排泄時の声かけは本人の耳元で行っている。個人情報に関する記録類は、事務室の鍵のかかる戸棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間・曜日等は概ね決められているが、本人の意思を尊重した支援が行われている。例えば、食欲がないので後で食事をしたり、決まられた時間や曜日以外で入浴をしたりしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節の野菜を取り入れ、管理者が献立を作成している。1ヶ月に1回はバイキング形式で食事をしたり、普段の食事は盛り付ける量（主食・副食）を少なめにして、おかわりする工夫をしている。テーブルを拭いたり、配膳、食器の片付け等、利用者の気持ちを大切に気づいた利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日午後の時間帯、個浴でゆっくり入浴を支援している。本人の希望があれば毎日でも入浴できる。入浴前の脱衣が面倒等で入浴拒否の場合は、タイミングを見逃さないチームワークで対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を活かし、生け花や書道、家庭菜園をしている。また、敷地内のケアハウスに住む絵画の先生に利用者が水彩画を教わったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃は、事業所の周辺や敷地内にある交流広場を散歩している。時には、敷地内にある外来者も利用する喫茶店に寄ることもある。花見へ行くことや本人の希望で夫の入院先へ見舞いに行くこと等の支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関から、屋外へ自由に出入りできる。また、居室からも庭に出ることができる。職員は利用者の見守り、声かけ等を行い、常に所在確認に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自の通報の方法、役割分担、消火器の設置場所・使い方等のマニュアルがある。年2回、併設施設合同の避難訓練を消防士の指導により実施している。シルバー人材センターの方、近所の方の協力で行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者と職員が一緒に食事やおやつを摂ることで、利用者の一日の水分摂取量（目安1000ml）、食事摂取量（1400キロカロリー）、状態等を把握・記録している。嫌いなものは、代替食を用意している。また、糖尿病食は、他の利用者と同じ献立に同じ調理法を用いて、量で調節している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は広く、南側はガラス張りであり、光をロールカーテンで調節している。また、居間には畳敷きのスペースがあり、廊下の3ヶ所に談話できる場があり、居心地よく過ごせる工夫がしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であり、家族の写真、自分で作った品、カレンダー等が置かれ本人の好みを取り入れている。また、ハンガーラックを利用し衣類の目立つ居室等もある。居室内のものの整理は、家族や本人の了解を得て一緒に押入れに収納している。		